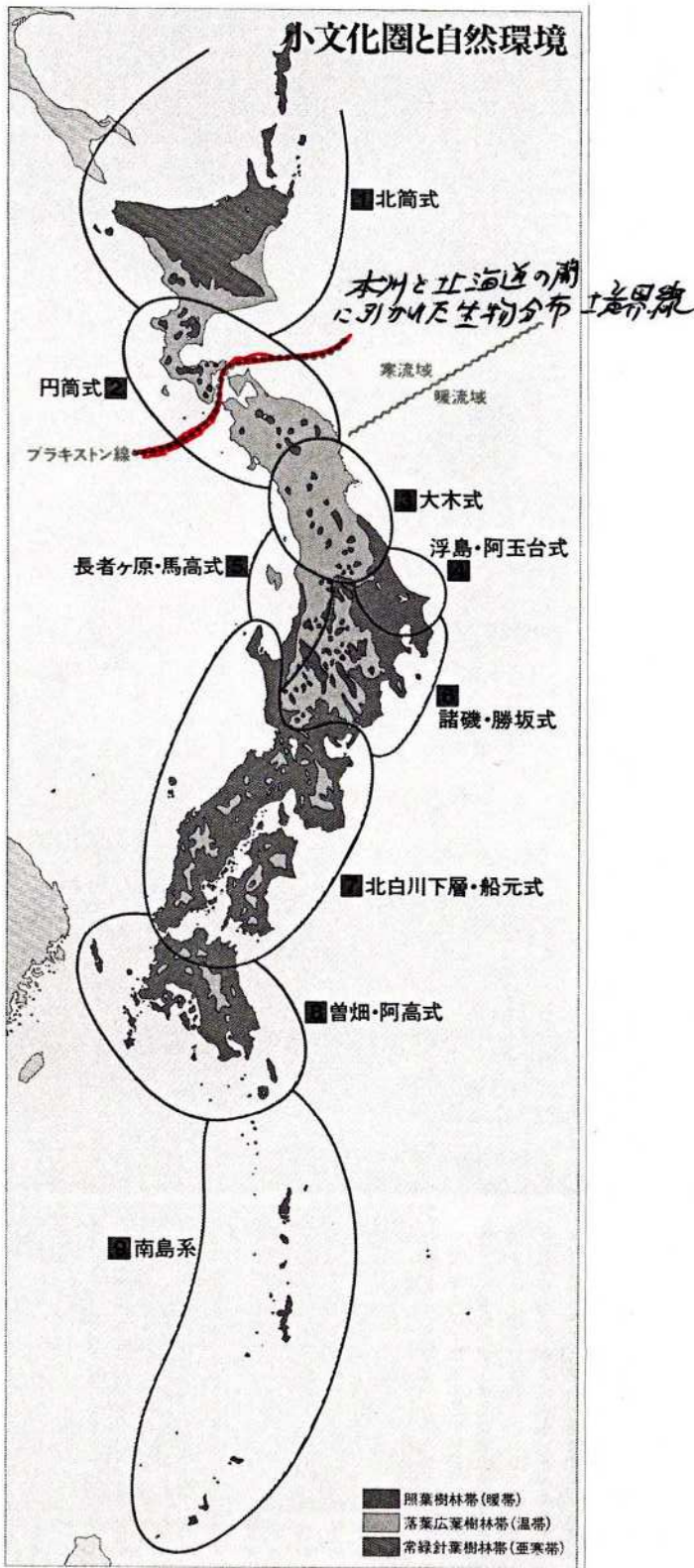
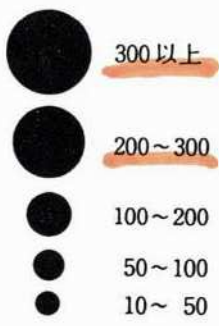


小文化圏と自然環境



(モヨロ貝塚)

- 早期
- 前期
- △ 中期
- 後期
- 晚期
- x 不明



□ 大森貝塚

● 稻荷丸北遺跡
(都立一橋高等学校)
校内遺跡
(葛西城)

○ 葛蒲崎貝塚

- 野渡貝塚
- 藤岡貝塚
- 後藤貝塚

● 東釧路貝塚

● 里浜貝塚

□ 新地貝塚

○ 寺西貝塚

● 真脇貝塚

○ 夏島貝塚

○ 平坂貝塚

● 南堀貝塚

● 鳥浜貝塚

● 佐太講武貝塚

○ 石山貝塚

○ 陸平貝塚

□ 椎塚貝塚

○ 花輪台貝塚

□ 上高津貝塚

● 大楠貝塚

● 津雲貝塚

● 彦崎貝塚

● 福田貝塚

○ 黄島貝塚

□ 伊川津貝塚

□ 保美貝塚

□ 御領貝塚

x 老齡貝塚

○ 西之城貝塚

● 幸田貝塚

□ 奉免安樂寺貝塚

△ 子和清水遺跡

□ 宮本台遺跡
(上ノ台遺跡)

○ 飯重新畑遺跡
(夏見台遺跡)

○ 飯重新畑遺跡

● 新田野貝塚

□ 荒海貝塚

△ 山武姥山貝塚

△ 多竜台遺跡

□ 堀之内貝塚

△ 加曾利貝塚

△ 姥山貝塚

△ 曾谷貝塚

□ 草刈場貝塚

□ 積橋貝塚

△ 高根木戸遺跡

□ 鉦切洞窟

△ 稻原遺跡

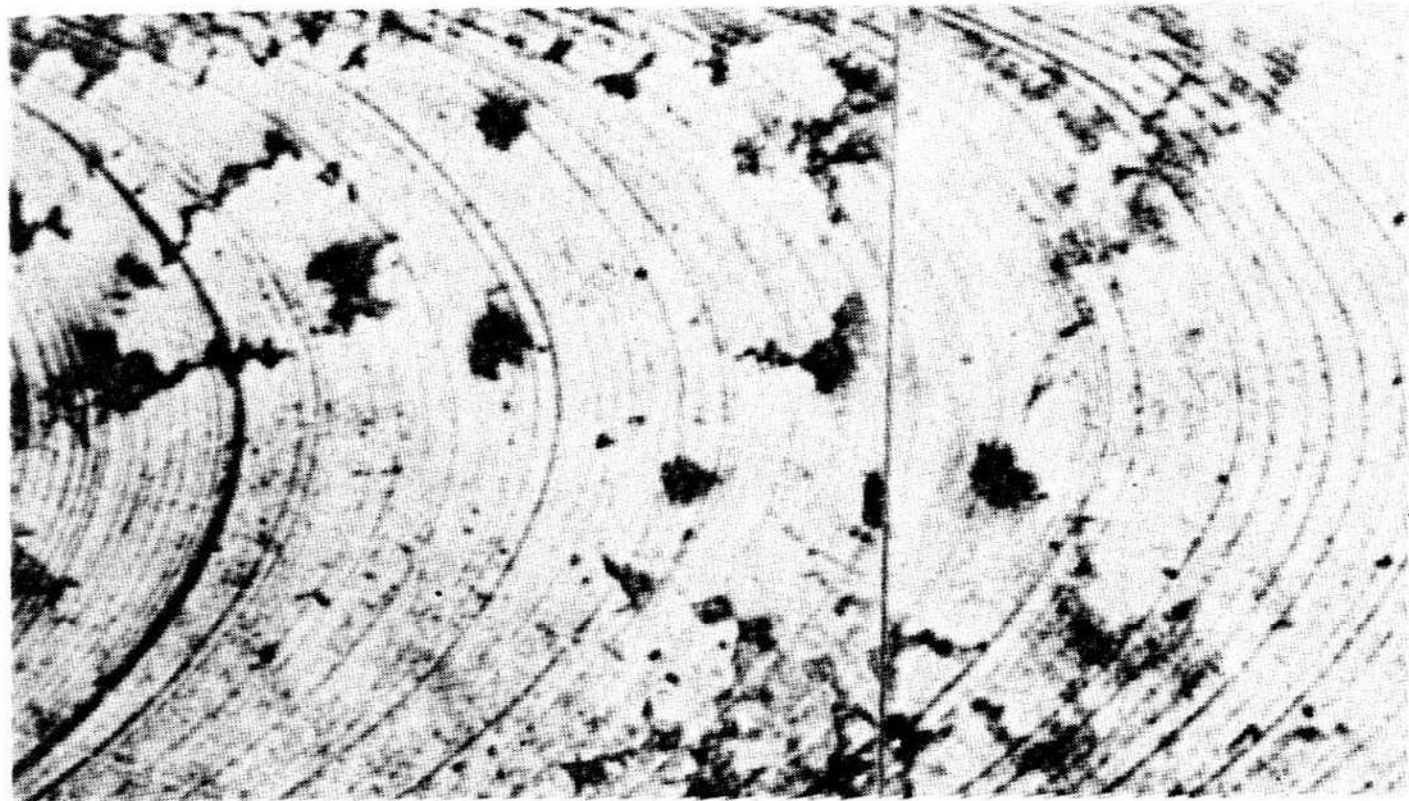
● 宝導寺台貝塚

● 神門貝塚

○ 鶴崎貝塚



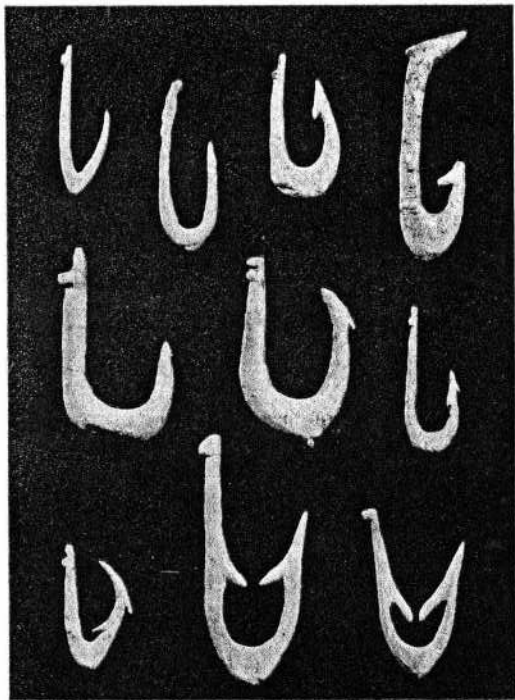
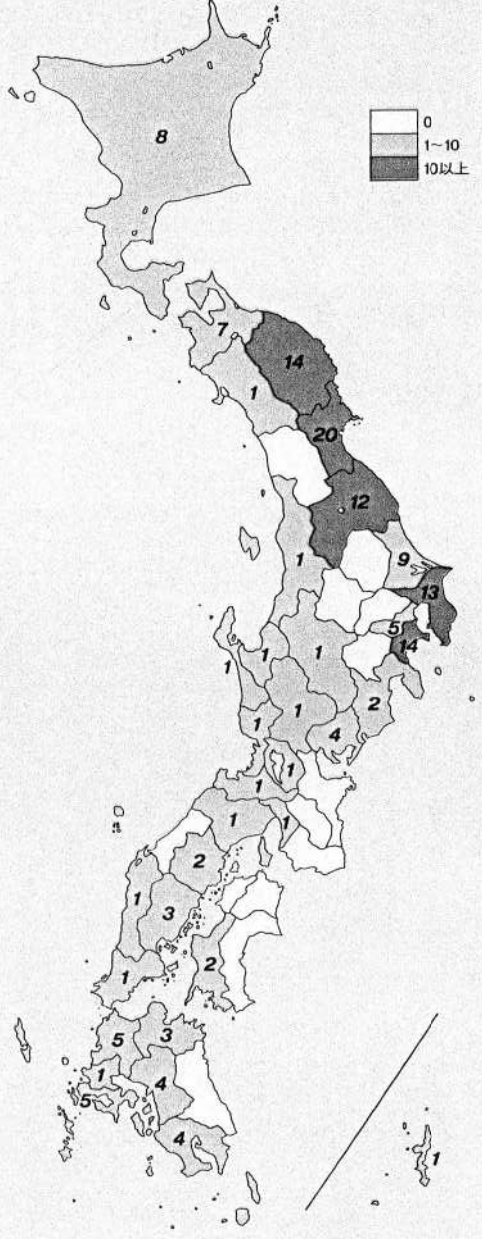
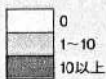
○ 荻堂貝塚



貝殻の成長線（ハマグリ貝殻の縦断面の拡大写真）

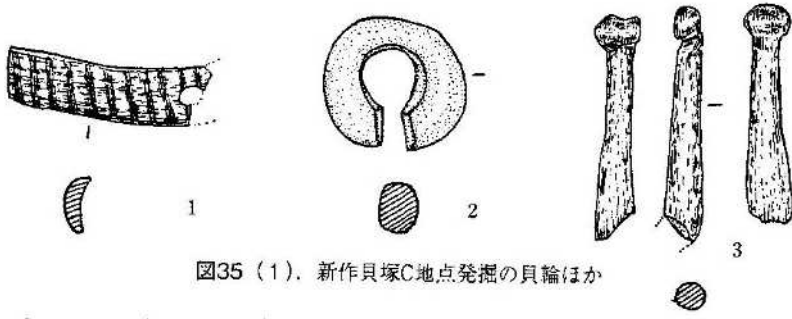
一日一本ブツ形式の成長線。冬期は高密=冬輪。
採貝は春に集中。夏の間は「夏のハマグリは尤も金持ち」
「夏の穂かてた5.アサリは金持ち」等の諺がある。

釣針の出土遺跡数



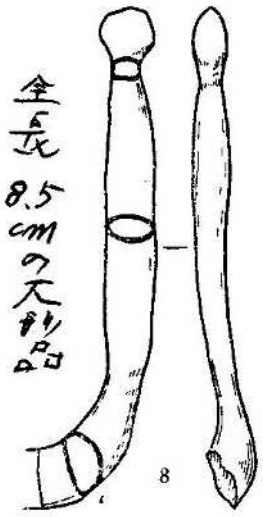
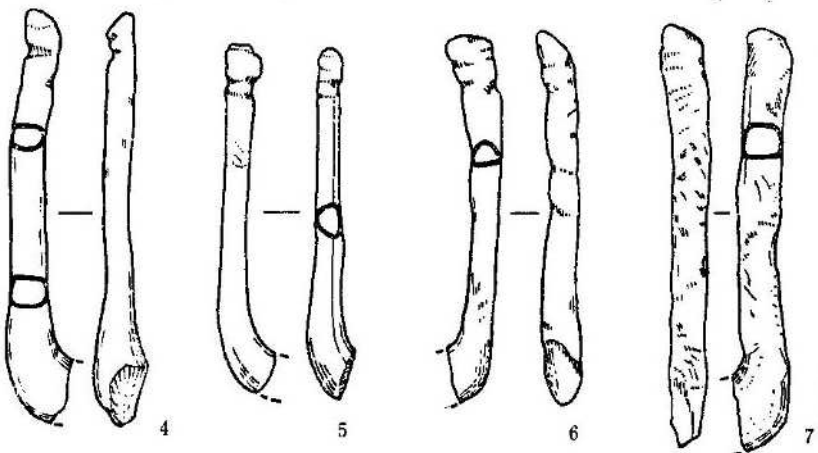
沼津貝塚出土の釣針 東北大学考古学研究室

寒流と暖流が交わる太平洋岸に多い。
茨城県は内湾漁撈が発達。

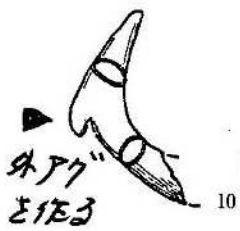
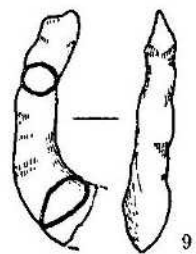


▲ 糸かき針
 やすくする

図35 (1). 新作貝塚C地点発掘の貝輪ほか



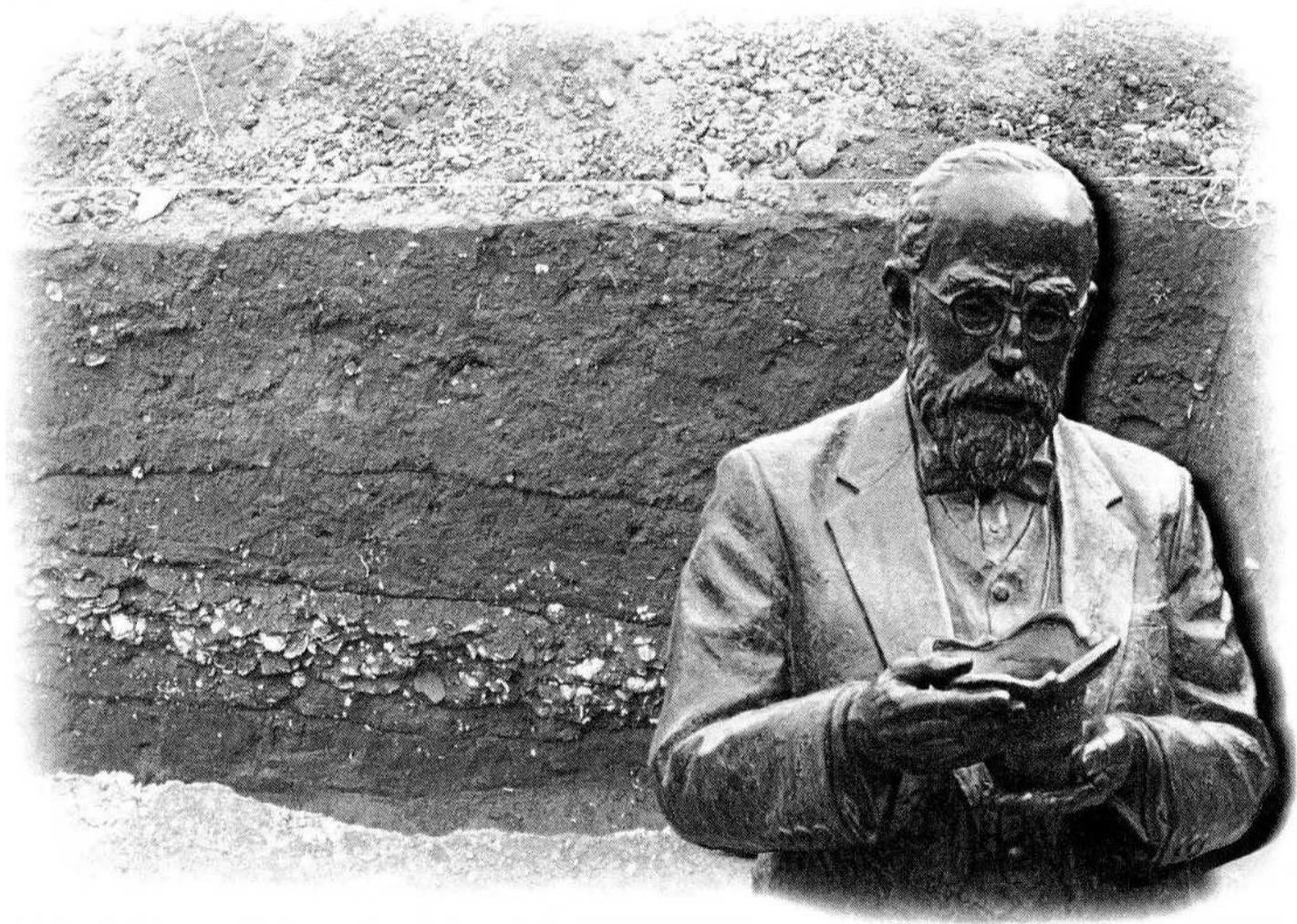
全長
 8.5
 cmの
 天鈿品



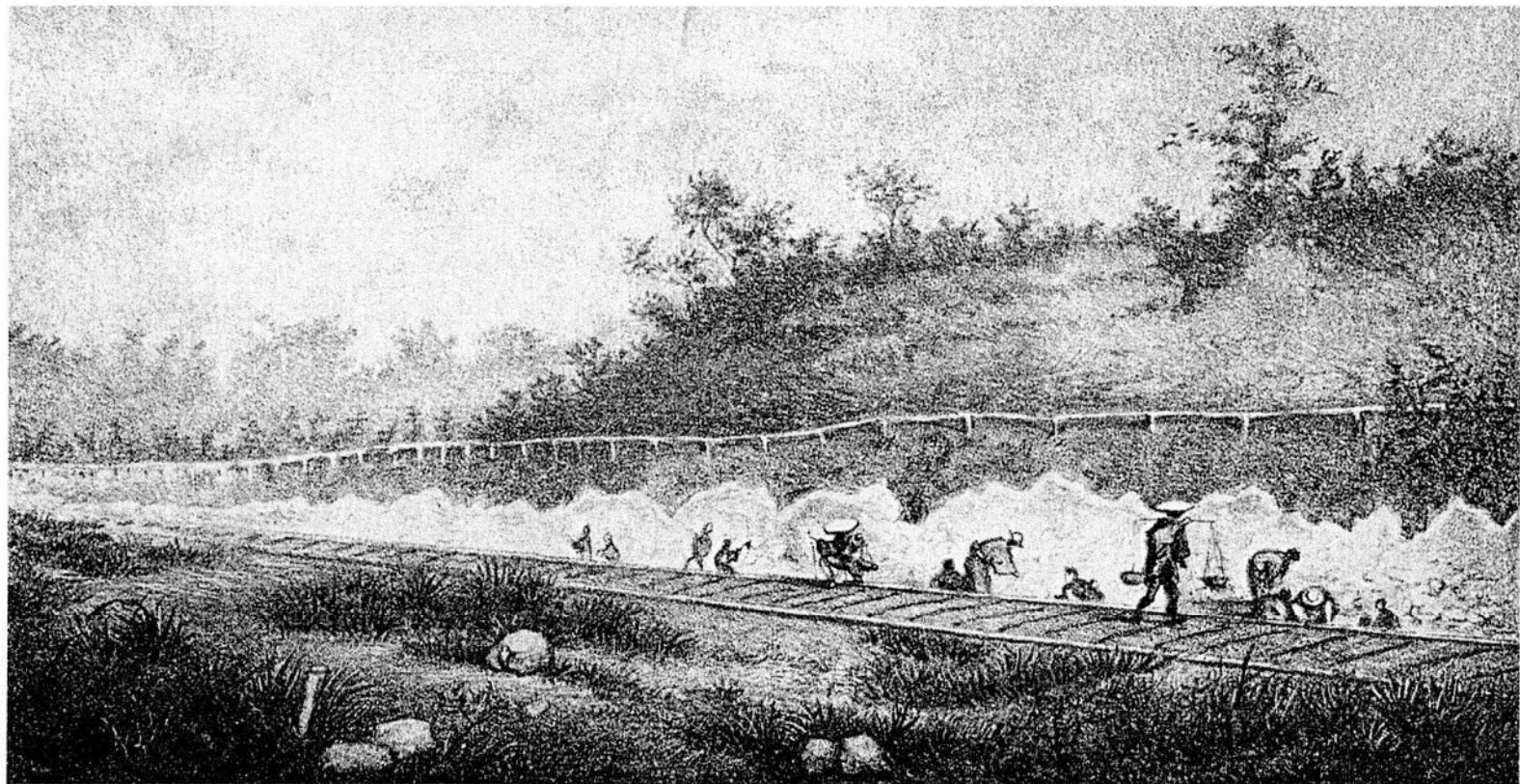
▲ 外アケ
 と作る



図35 (2). 菊名貝塚発掘の釣針

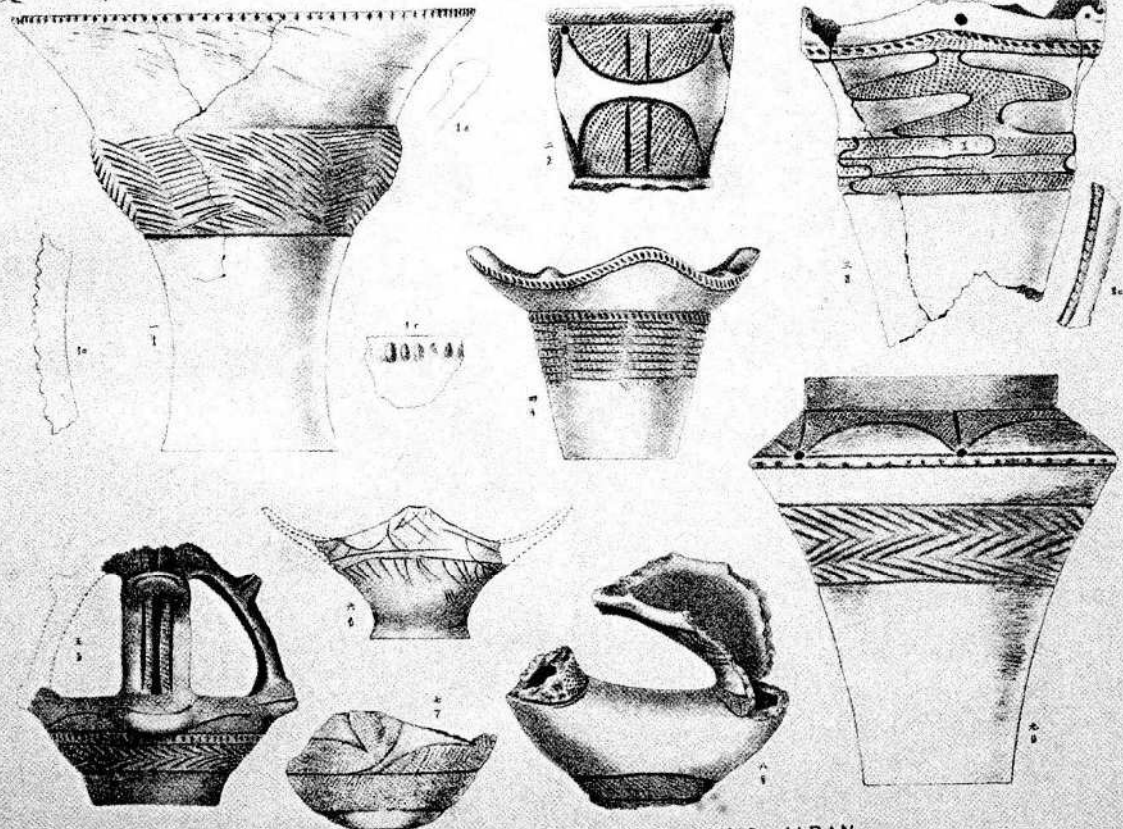


博士トモトキノ文器



33 大森貝塚発掘のようす（『大森介墟古物編』より）

モースが、オホノコ一軒、橋の車中でみた大森貝塚。
進行右側か、左側か。



SHELL MOUNDS OF OMORI NEAR TOKYO, JAPAN.

40 モースの報告書
図版1 (plate 1)
(英・和文とも同一)

正確な図面。ピンセットを使った実測図。
 後でよめる 幸区南加瀬貝塚には、実測図がなかった。
 (土器の)

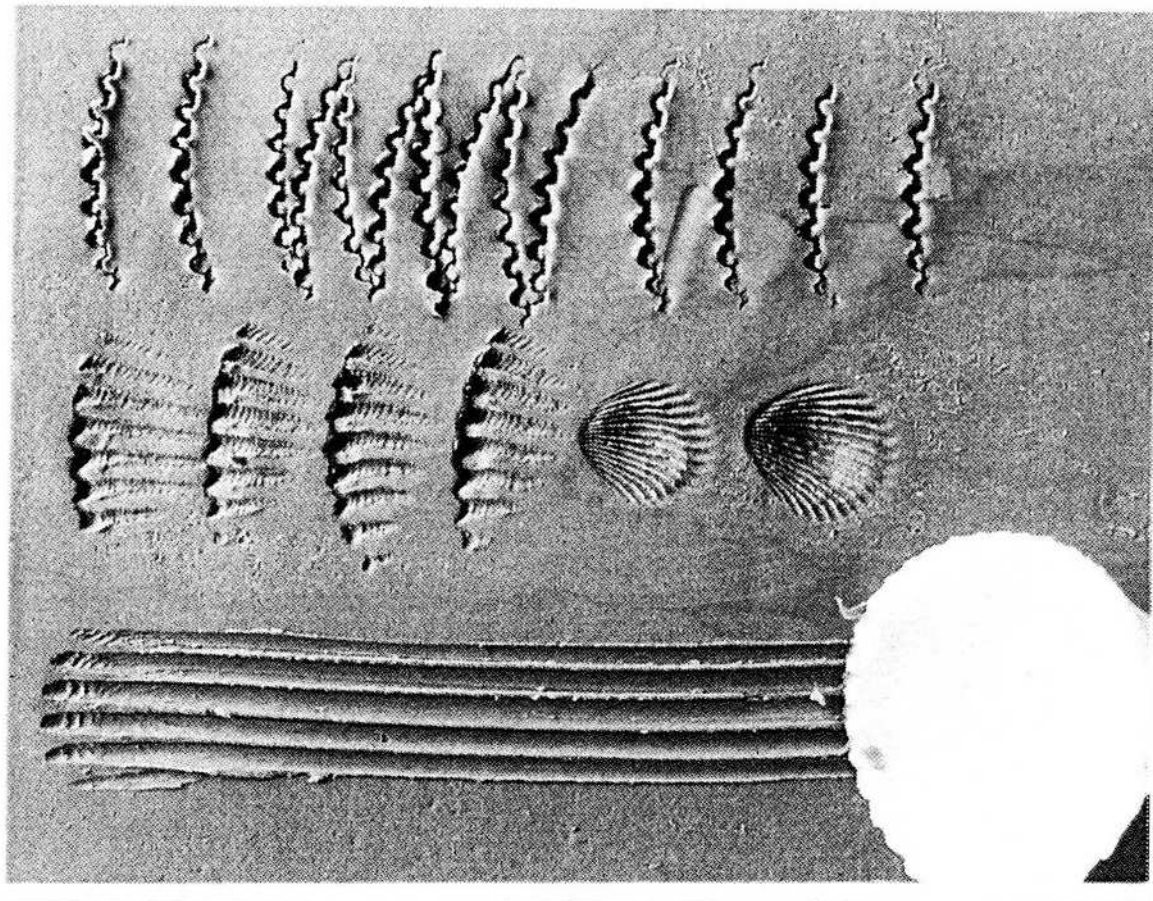
縄紋土器型式の細別と大別

	渡島	陸奥	陸前	関東	信濃	東海	畿内	吉備	九州
早期	住吉	(+)	機木 1 " 2	三戸・田戸下 子母口・田戸上 茅山	曾根? × (+)	ひじ山 粕畑		黒島 ×	戦場ヶ谷 ×
前期	石川野 × (+)	円筒土器 下層式 (4型式以上)	室浜 大木 1 " 2a, b " 3-5 " 6	蓮田 { 花積下 関山 式 黒浜 諸磯 a, b 十三坊台	(+) (+) (+) 踊場	鉾ノ木 ×	国府北白川 1 大歳山	磯ノ森 里木 1	轟?
中期	(+) (+)	円筒上 a " b (+) (+)	大木 7a " 7b " 8a, b " 9, 10	五領台 阿玉台・勝坂 加會利 E " (新)	(+) (+) (+) (+)			里木 2	會畑 } 阿高 } ? 出水 }
後期	青柳町 × (+) (+)	(+) (+) (+)	(+) (+) (+)	堀之内 加會利 B " " 安行 1, 2	(+) (+) (+) (+)	西尾 ×	北白川 2 ×	津雲上層	御手洗 西平
晩期	(+)	亀ヶ岡式 { (+) { (+) { (+) { (+)	大洞 B " B-C " C1, 2 " A, A'	安行 2-3 " 3	(+) (+) (+) 佐野 ×	吉胡 × " × 保美 ×	宮滝 × 日下 × 竹ノ内 × 宮滝 ×	津雲下層	御領

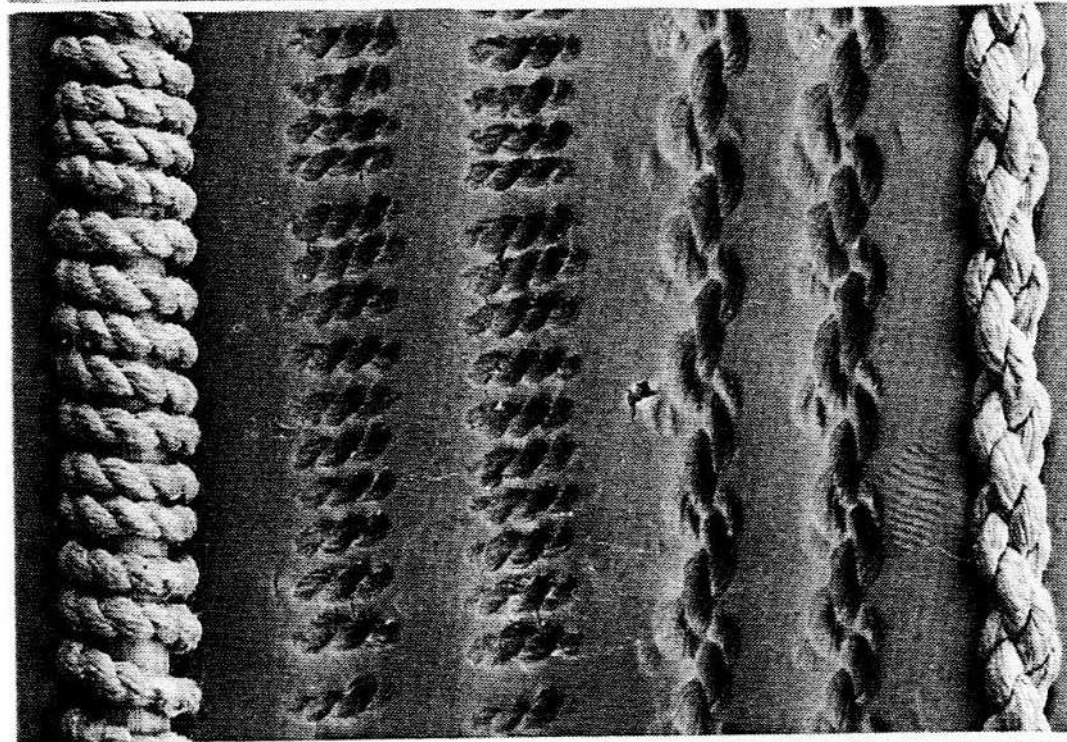
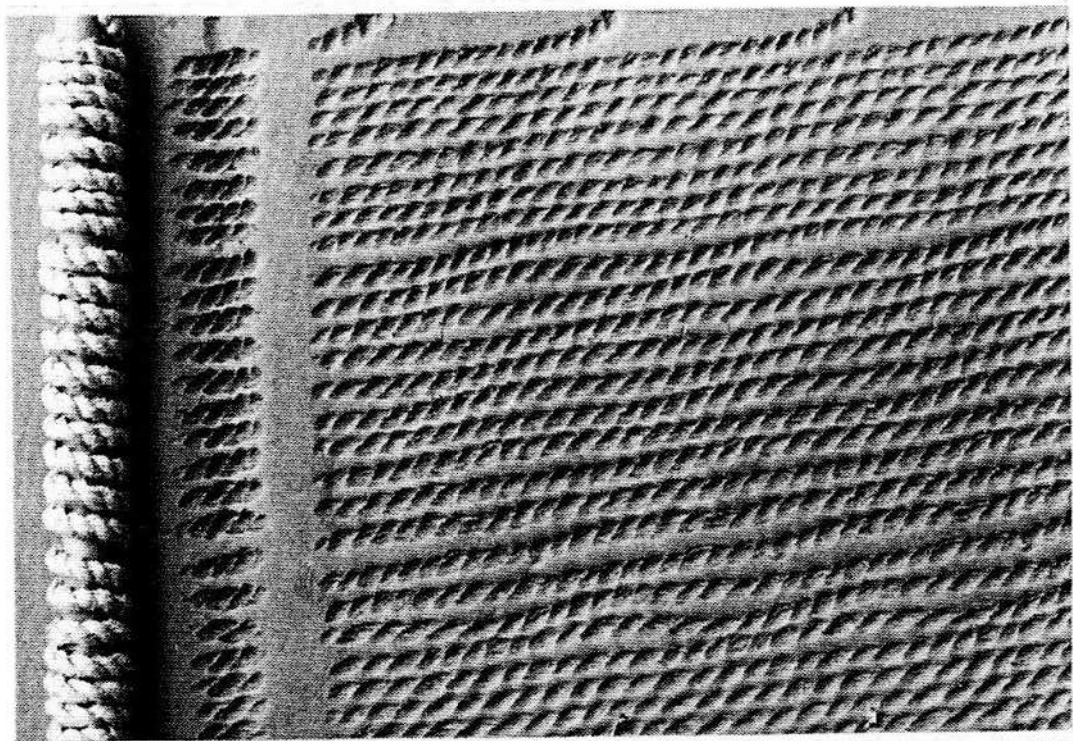
- 註記 1. この表は仮製のものであって、後日訂正増補する筈です。
 2. (+) 印は相当する式があるが型式の名が付いて居ないもの。
 3. (×) 印は型式名でなく、他地方の特定の型式と關聯する土器を出した遺跡名。

図19. 『縄紋土器型式の細別と大別』。関東地方の早期に子母口の文字が見える。前期の十三坊台は、宮前区野川の十三菩提のこと。川崎市内に2つの標式遺跡が含まれている。

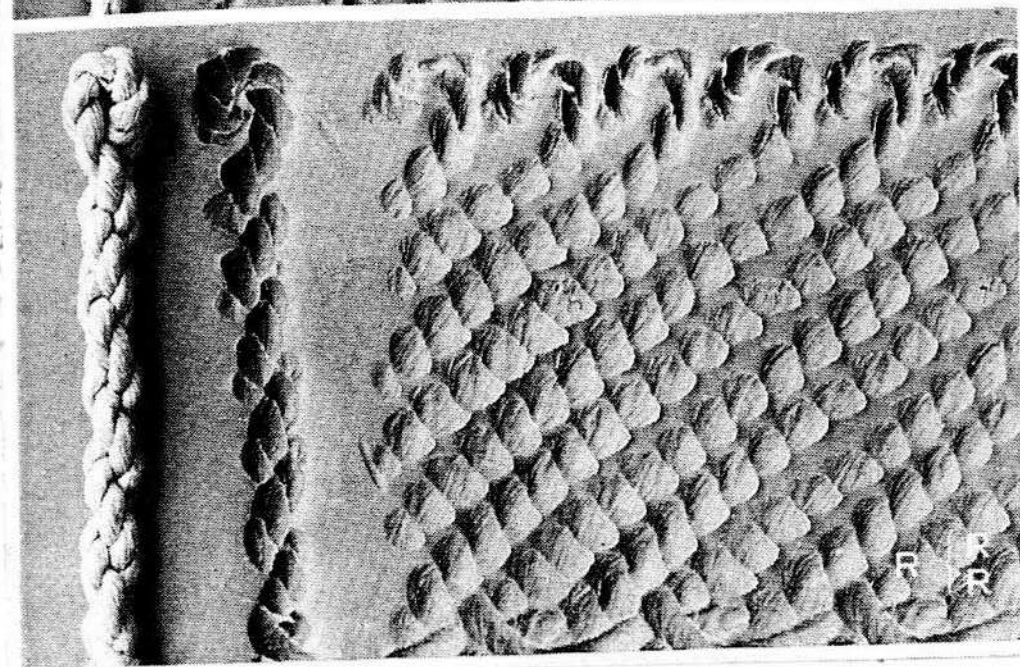
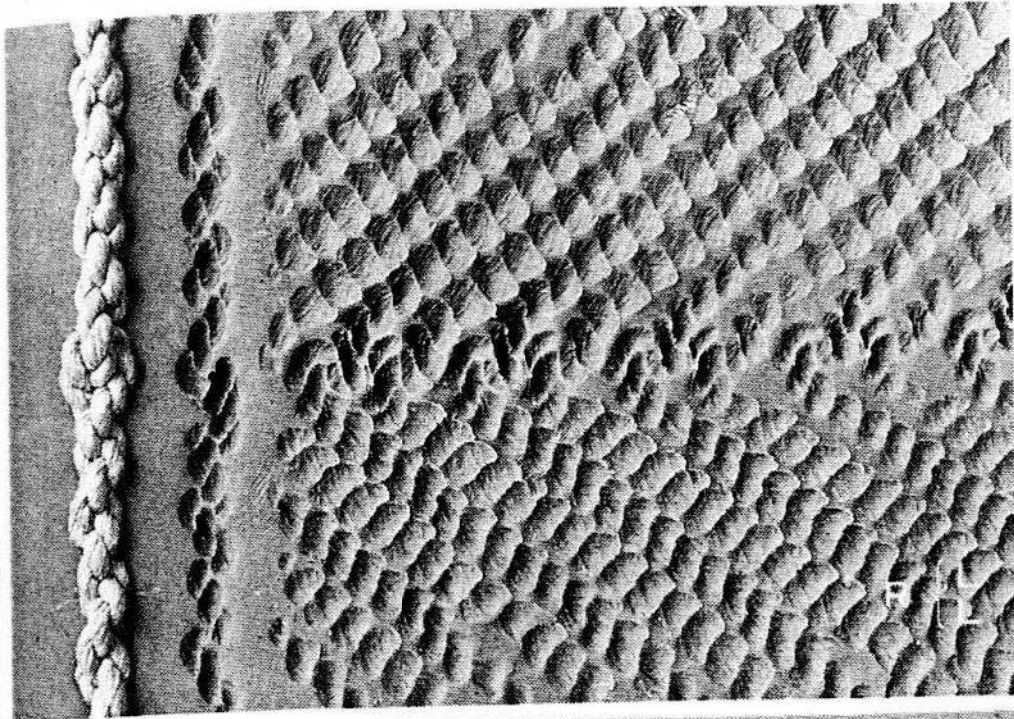
山内清男と芥沢長介は、縄文土器の起源年代で大論争。
 起源年代は山内の負け。しかし、編年序列は正確であった。



貝類は、食べるだけがなく、土器表面の施文具としても
 生業があった。→貝殻文といふ。
 (上カ) 貝殻腹縁文、貝殻押捺文、貝殻条痕文



(上)擦糸之、(下)各糸体压痕之。子田口式の特徴



(上)羽状罽文 (下)ゆきむすび罽文、
 罽文土器文様の最大特徴である「罽目文様」
 は、子母口式にアブク、罽文前期に集中する。

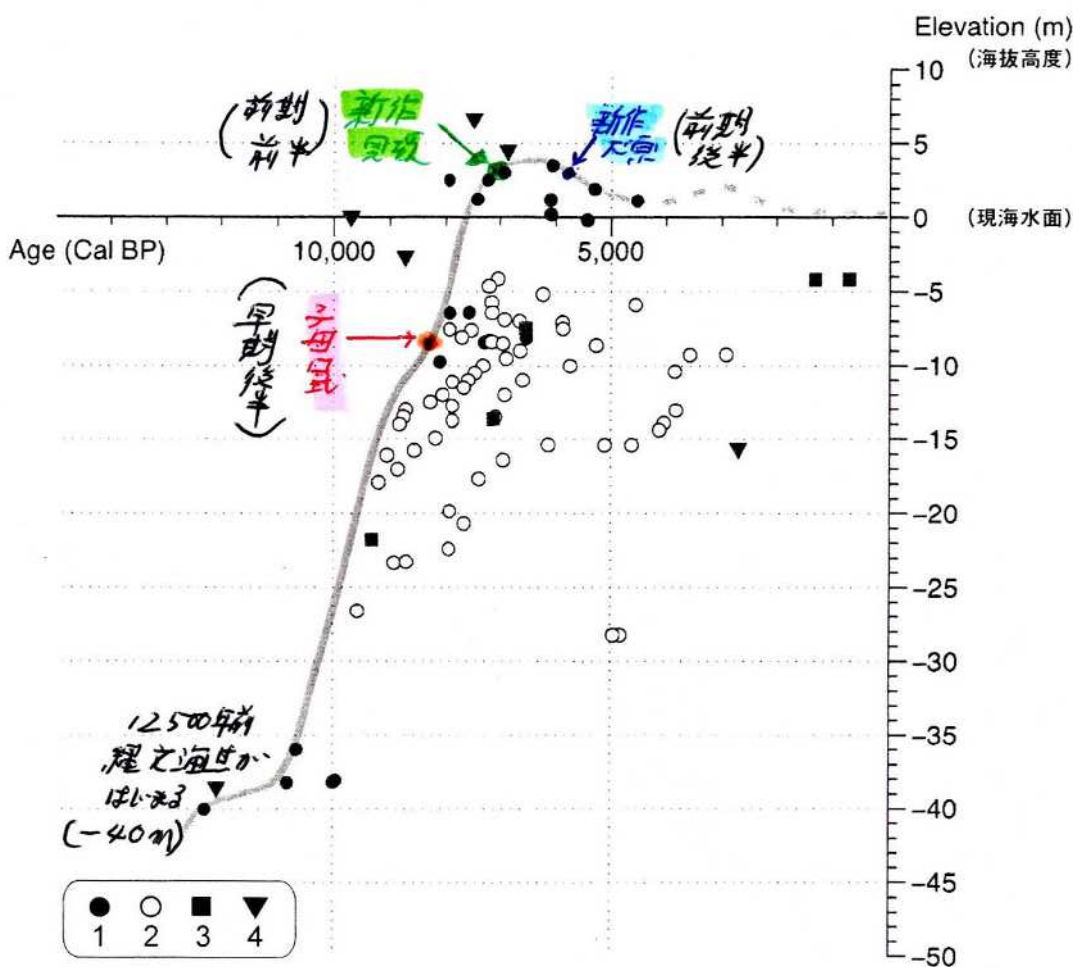
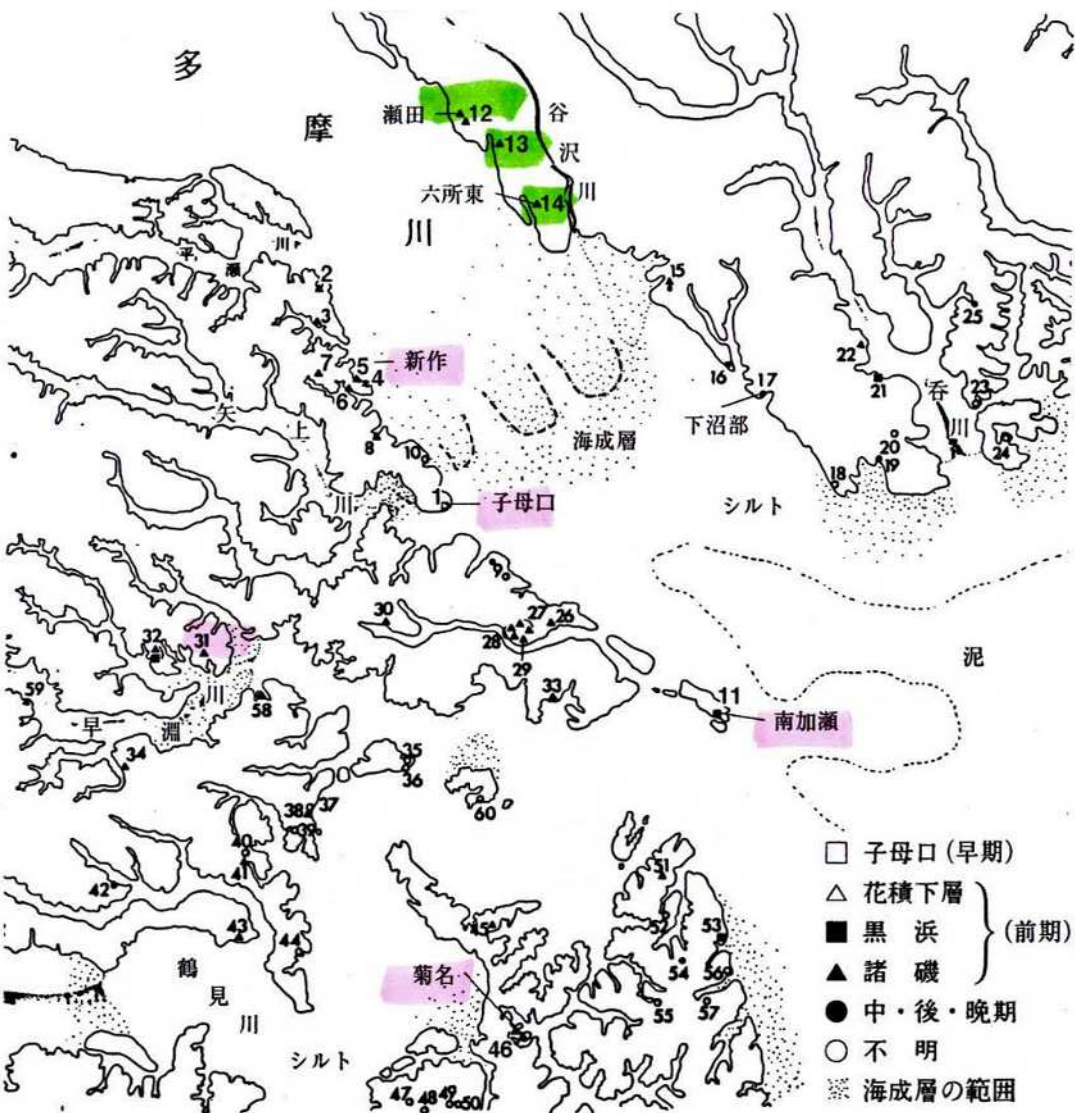


図11. 多摩川・鶴見川下流域における約13,000年前以降の相対的海面変化曲線 (点線の部分は松島(2011)の横浜市金沢八景平潟で明らかになったデータによる) 縦軸の数字は現海水面を0とした時の海面高度(m)。横軸は年代(5000は5000年前、10,000は10,000年前)。

例えば今から6300年位前には、海進が最も進み、海面の高さが+4m前後に達していたと読む。

1: 潮間帯に生息する種、2: 内湾の潮間帯下に生息する種、3: 木片、4: 泥炭。



- 1.子母口 2.久本 3.末長 4.新作A・B 5.新作C 6.新作D 7.大原 8.影向寺裏
 9.井田伊勢台 10.有山(蟻山) 11.南加瀬 12.瀬田 13.稻荷丸北 14.六所東 15.上沼部
 16.多摩川園北 17.下沼部 18.増明院裏 19.千鳥窪 20.久ヶ原 21.庄仙 22.雪ヶ谷
 23.塚越 24.桐里町 25.馬込 26.矢上谷戸 27.下田東 28.下田西 29.下田南 30.高田
 31.南掘 32.西ノ谷 33.箕輪 34.茅ヶ崎 35.東峰 36.峰谷 37.宮ノ原北 38.宮ノ原南
 39.吉田平台 40.北新羽 41.新羽 42.源東院 43.折本 44.専念寺裏 45.師岡 46.菊名
 47.八幡神社境内 48.富士塚西 49.表谷西 50.表谷東 51.梶山 52.長者原 53.上台
 54.小仙塚 55.別所 56.別所池端 57.北台 58.北側 59.境田 60.南綱島

図34. 縄文前期の海岸線と主要貝塚(浜田・山崎ほか 1992に加工)。
 図上の番号と下段の貝塚・遺跡名は一致する。P34の図14とも対応する。

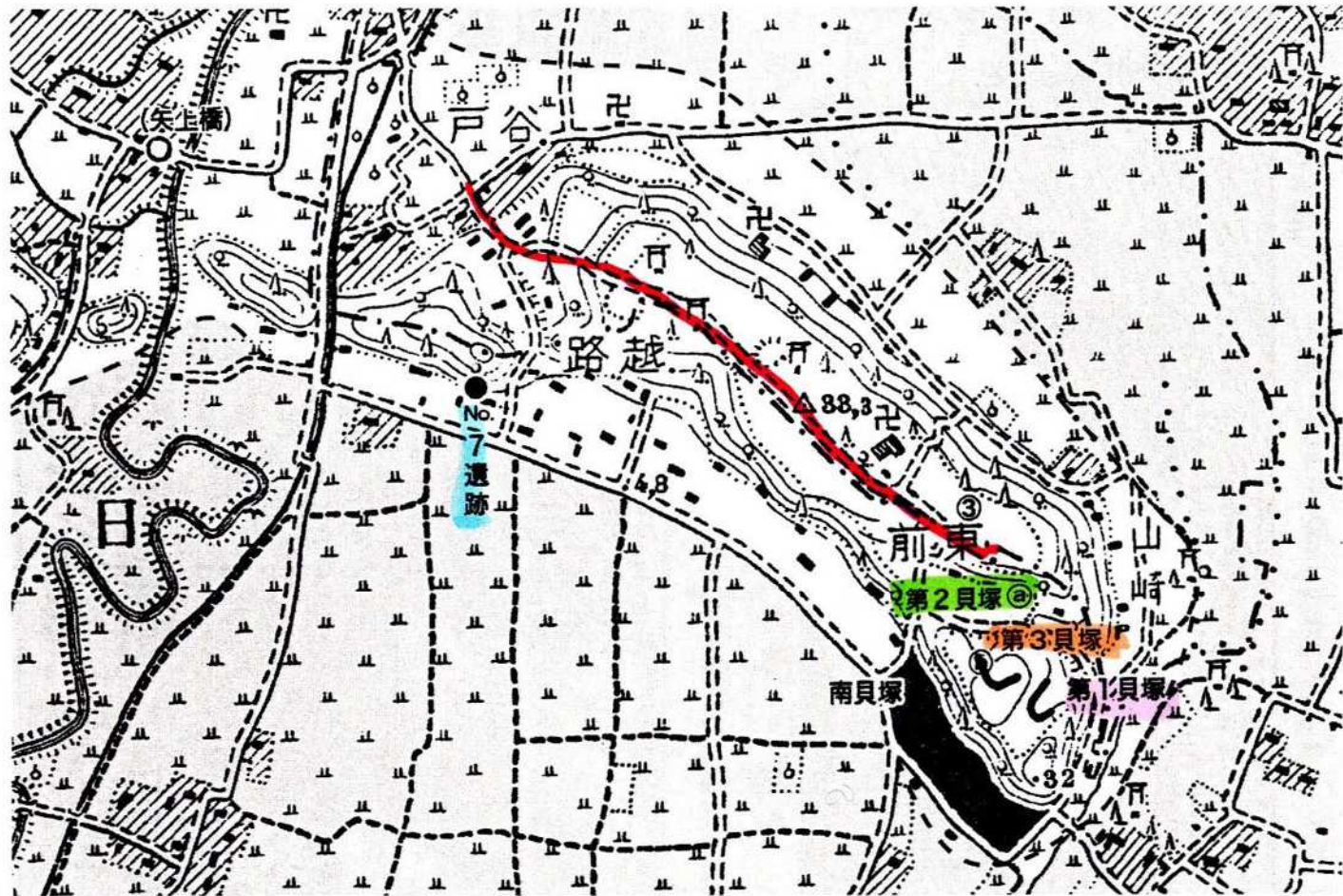


図21. 縄文海進最盛期（前期・黒浜期）の加瀬山周辺。第1～3貝塚、南加瀬（南）貝塚の位置を示す。●は幸区No.7遺跡（黒浜期）。（アミ掛け部分は、当時の（推定）汀線の位置、松島・村田が浜田ほか2017に加工）。

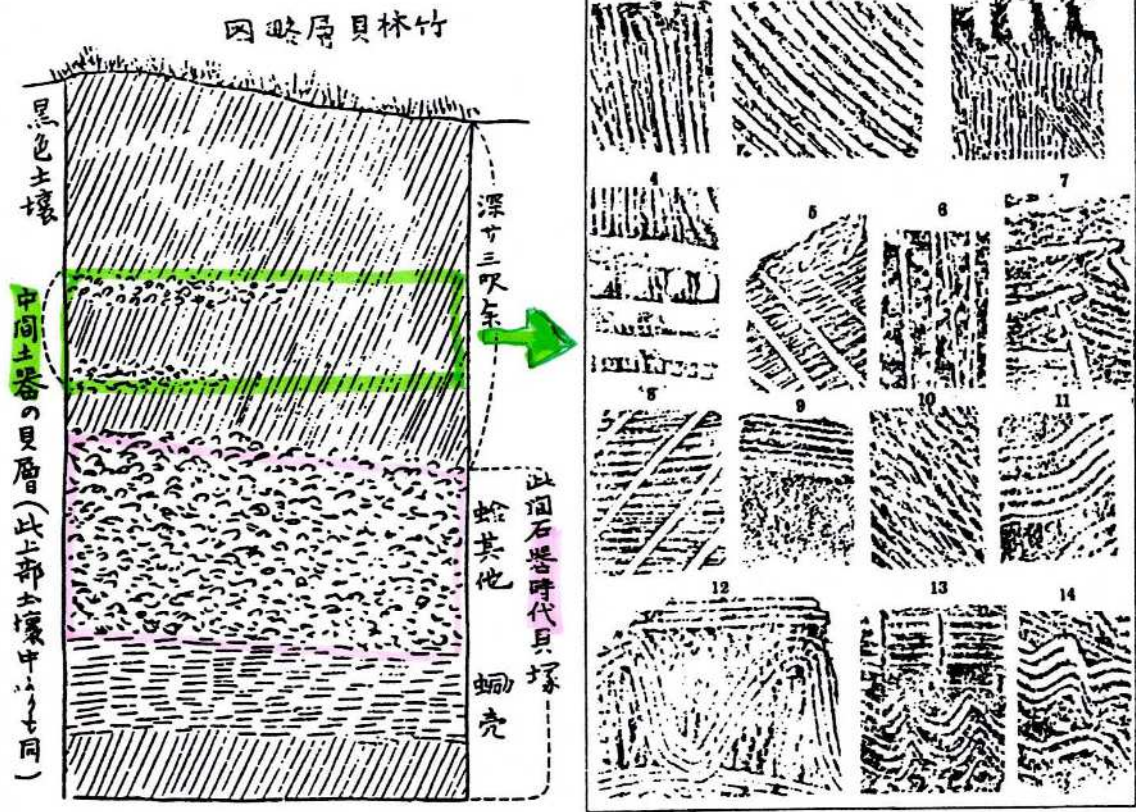


図22. 左・南加瀬第2貝塚の地層断面図。右・左図に記された「中間土器」の拓影図。(N.G.マンロー『PreHistoric Japan』より。浜田ほか2017に加工)。

ニール・ゴードン・マンロー (スコットランド生まれの医師) 明治24年来日。
 明治39年 南加瀬貝塚発掘 (現場は 東大数学教室嘱託 八木英三郎)
 オ1・2貝塚発掘。 右図の土器は、八木報告にはない。

地層果実の法則

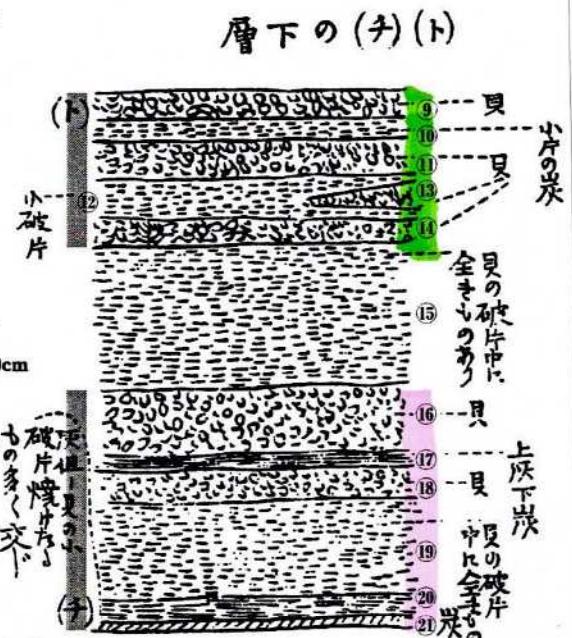
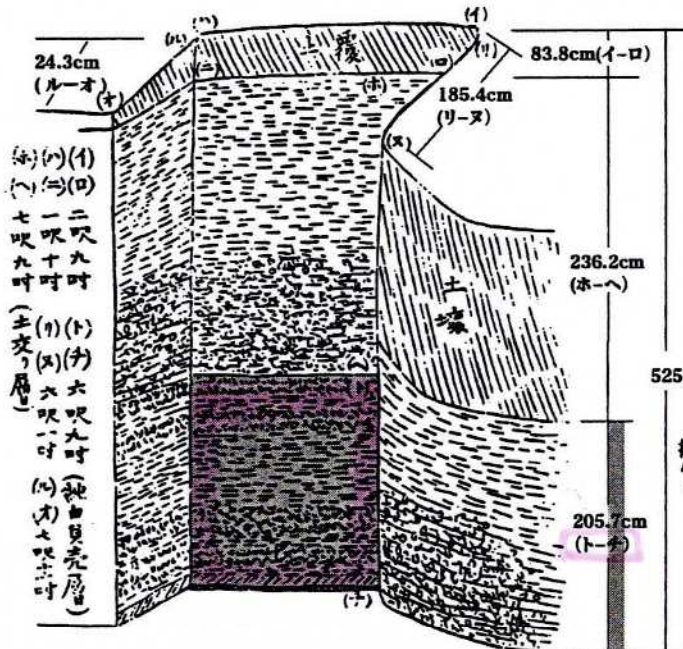
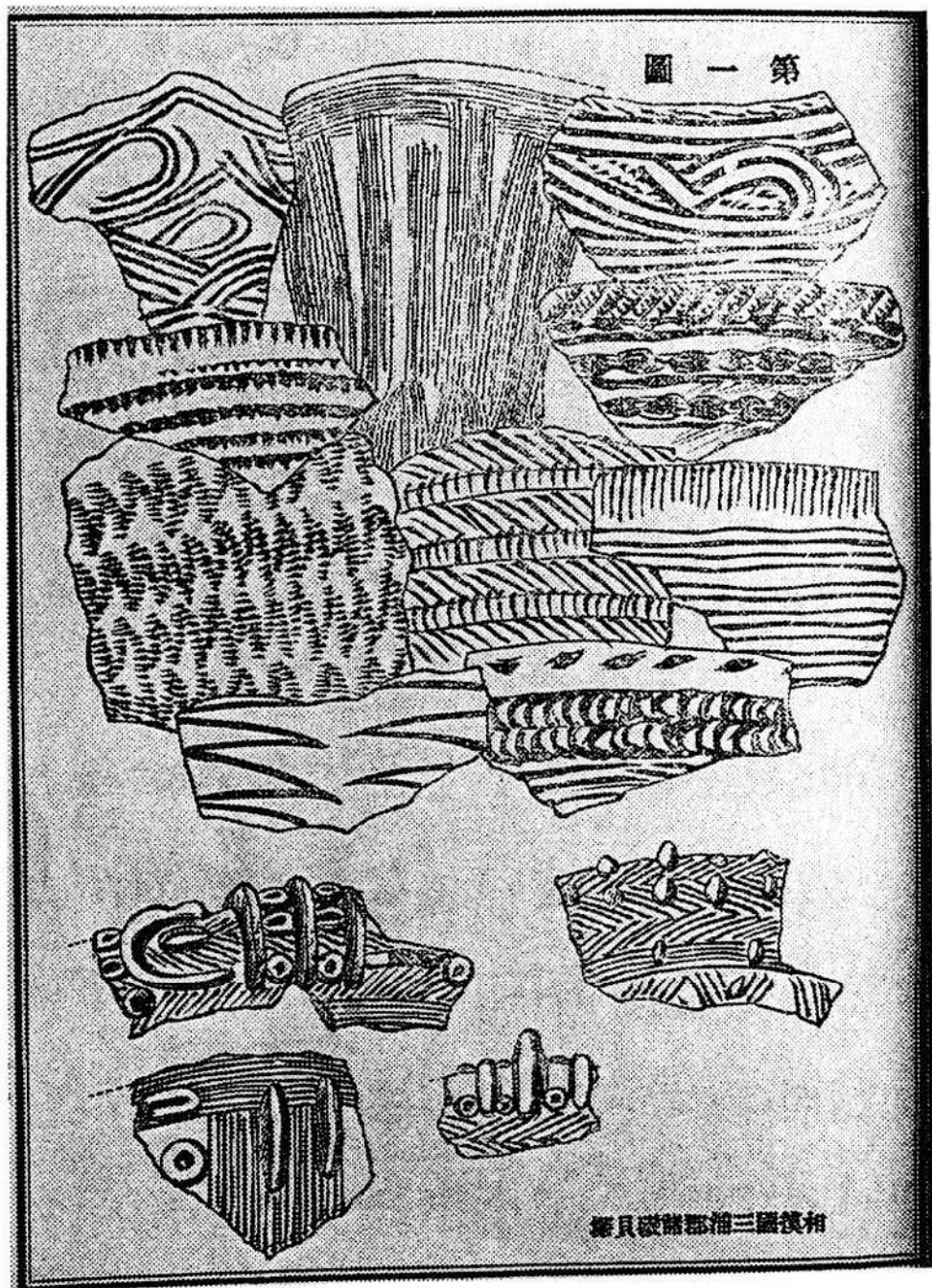


図23. 左・南加瀬第1貝塚の地層断面図。アミ掛けした(ト)~(チ)に縄文・弥生期の貝層。右・左図の詳細図。上段の⑨~⑭が弥生期の貝層、下段の⑯~㉑が縄文期の貝層(浜田ほか2017に加工する)。

オ2貝塚同様、上層に弥生期の貝層、下層に縄文期の貝層。

[大正7、8年、浜田耕作(京都大学)等により、橋本川川堤跡から発掘され、上層に弥生土器、下層に縄文土器が発掘。二つの土器に年代差があることが、日本では初めて明らかになった。

『縄文時代石器事典』東京堂出版、1994年刊



諸磯貝塚出土の土器片スケッチ
(八木英三郎が描く)

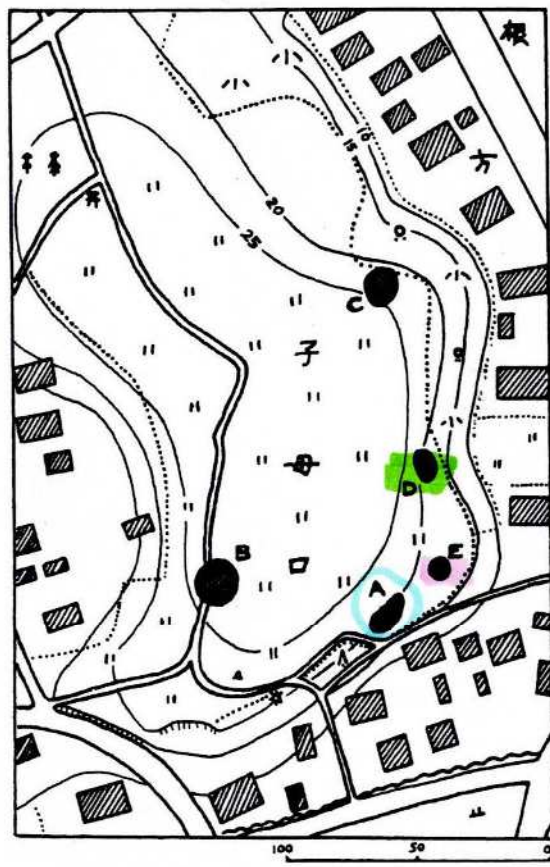
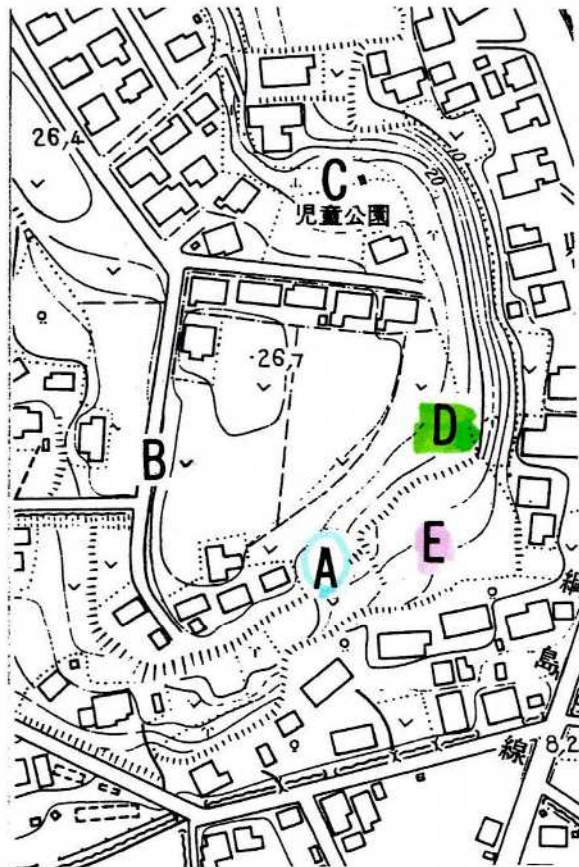


図25. 地点貝塚を形成する子母口貝塚。左・渡辺報告に記載されたA~E地点、右・酒詰仲男が命名したA~E地点 (現在はE地点は除かれる)。

C地は 史跡公園 (常時見学可) D地は 山内清男調査地
 A地は 川崎市教育委員会他の調査地



子母口貝塚の貝層。三森定男発掘区。(提供・江坂輝弥) (『川崎市民ミュージアム紀要』第1集。増子ほか(1988)を一部加工)

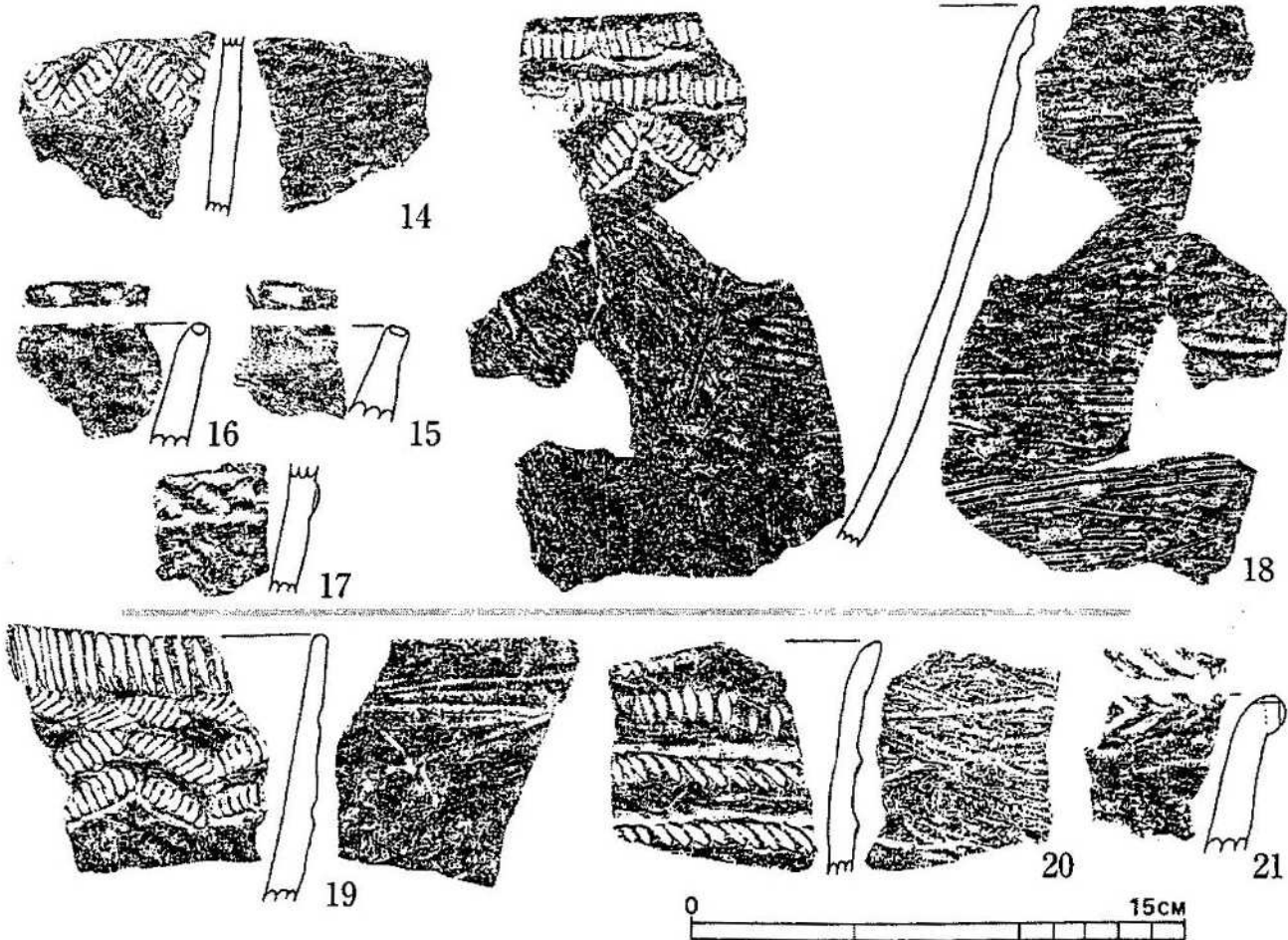


図33. 川崎市市民ミュージアム所蔵の子母口貝塚資料。1～13（昭和32年壁工事中に発見）、14～18（昭和61年、展示資料発掘中に発見）、19～21（江坂輝弥氏寄贈）。1～18はC地点貝塚資料。

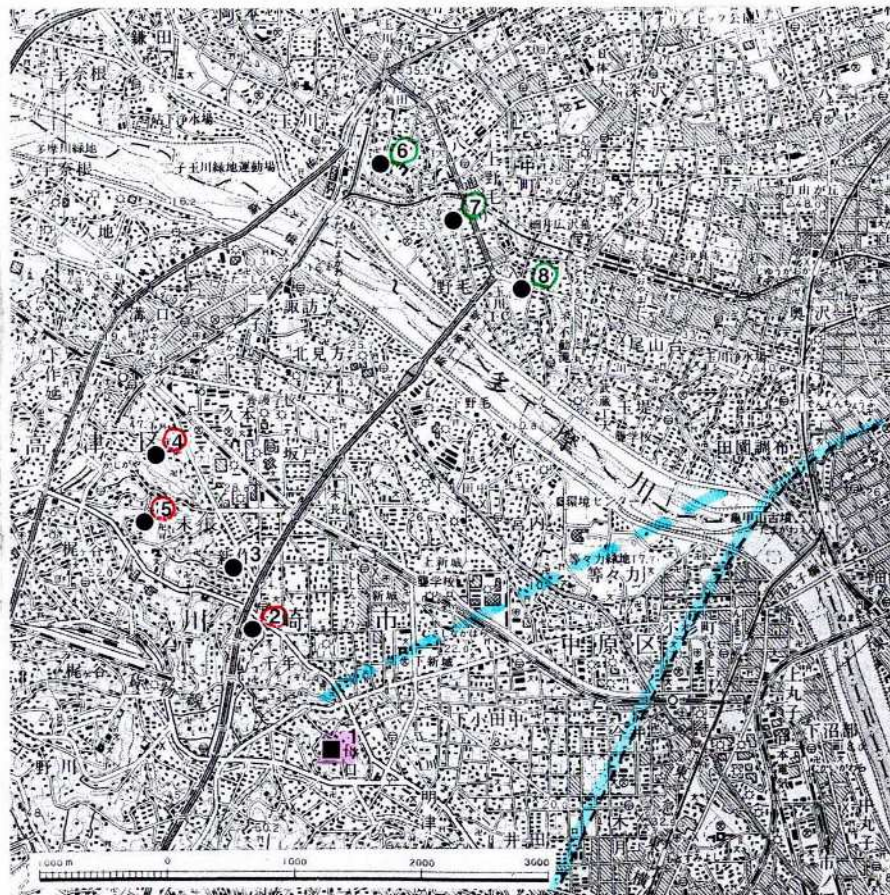


図36. 多摩川両岸の縄文早期・前期の貝塚遺跡（本双書に関連する遺跡の一部）

1. 子母口貝塚 ② 影向寺裏貝塚 3. 新作貝塚 ④ 久本貝塚 ⑤ 大原貝塚遺跡 ⑥ 瀬田貝塚 ⑦ 稲荷丸北貝塚 ⑧ 六所東貝塚

アミ掛け部分（松田が想定する縄文前期（後半期）の多摩川入江を村田が図上に加工した）

なお、縄文海進最盛期では、高津区千年と中原区等々力を結ぶあたりまで、海は進んでいたと想定されている（第2章五の松島分析）。

瀬田貝塚

ハマグリ、カキのみ
90%がハマグリ

稲荷丸北貝塚

ヤマトシジミ 63%
ハマグリ 30%

六所東貝塚

ヤマトシジミ
ハマグリ 最多

ムラ（遺跡）単位に
固有の採集種式がある？

海岸までの距離	貝塚数
1 km以内	4
2 "	2
3 "	0
4 "	7
5 "	2
6 "	1
7 "	1
8 "	0
9 "	0
10 "	0
11 "	1

第1表 縄文後期の貝塚
と推定海岸線までの距離

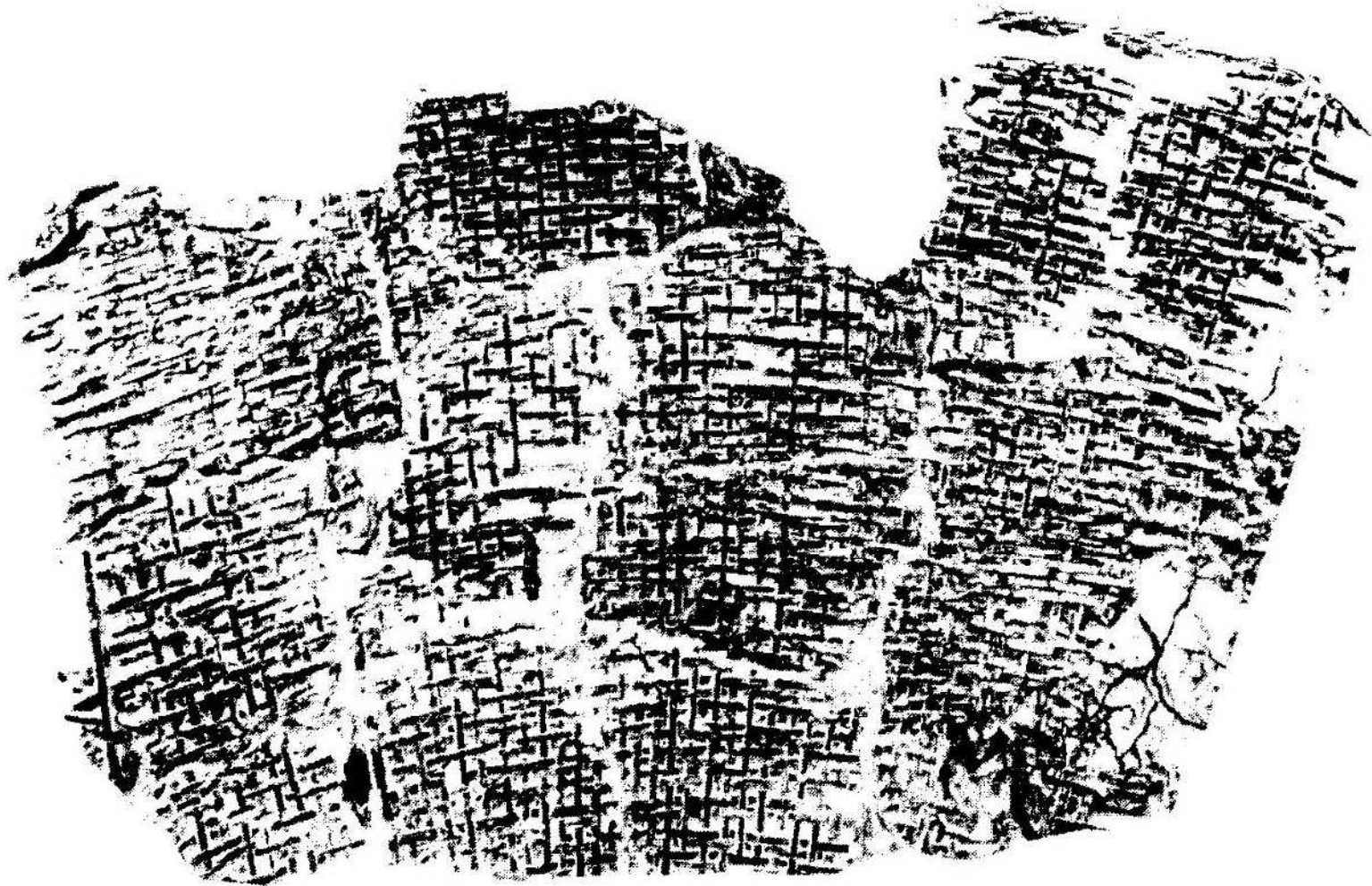


写真12 川崎市多摩区宿河原低地遺跡発掘の木製編籠製品（縄文後期前半期）